

128 127

(そうこうしているうちに) もだえ苦しんだ夏の猛暑も少しは和らぎ、
そろそろ涼しい気配が順序どおりに訪れるはずで、間もなく秋が到来しよう。

語釈

121 ○厭離…娑婆の苦痛をいとい嫌って世間を離れる。世を捨てる。いとい、捨て去る

『漢語大詞典』では「厭惡離棄」と説明し、「悪しきを嫌って捨て去る」意である。蘇軾の「書黃魯直李氏傳後」の「無所厭離、何從出世、無所欣慕、何從入道」の用例を引く。

○罪網…川口久雄氏は岩波日本古典文学大系本で、「罪業欲望の果てしなく深いこと」と説明されている。ここでは、「網にかかったように罪深い世界にがんじがらめに捕らえられているさま」と解釈した。

122 ○恭敬…うやうやしく慎む。敬い、つつしむ。仰ぎみる。

『詩経』の「小雅、小弁」に「維桑與梓、必恭敬止」の句が見える。

『漢語大詞典』では「①対人謙恭有礼貌」と説明し、『孟子』「告子上」の「恭敬之心、人皆有之」および『史記』「陳丞相世家」の「項王為人、恭敬愛人、士之廉節好禮者多歸之」の用例を引く。

○眞筌…真の悟り。真詮に同じ。真実の理法（ものごとこの道理）を表す文句をいう。

123 ○皎潔…白くいさぎよい。白く穢れなく清らかなこと。

王維の「早朝詩」に「皎潔明星高、蒼茫遠天曙」の句が見える。

『漢語大詞典』では「①明亮潔白」と説明し、班婕妤の「怨歌行」の「新裂齊紈素、皎潔如霜雪、裁